

○法人が中心となった農地集積等

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	島根県 おおちぐん 邑智郡 おおなんちよう 邑南町井原 かた 片田			
協定面積 30.0ha	田（100%）	畑	草地	採草放牧地
	水稻			
交付金額 605万円	個人配分 10%			
	共同取組活動 (90%)	営農組合への農作業委託費		36%
		鳥獣防止対策費		2%
		作業賃金		2%
		役員手当		4%
		農作業機械購入積立金 46%		
協定参加者	農業者 37人、農業生産法人（構成員35人）			開始：平成12年度
人・農地プランの作成状況	地区単位で作成済			

2. 取組に至る経緯

片田の集落協定は高齢化による担い手不足を補うために、将来の法人化を見据えて共同機械利用からスタートし、2期対策で片田の農業者全員による法人化を実現し、現在、（農）遊邑片田が地域農業の担い手として、協定による活動を牽引している。

第3期対策では、小規模・高齢化集落支援加算を活用し、隣接する集落で高齢化により協定維持が難しくなっている樋口谷集落を取り込み、法人が、高齢で耕作できなくなった農地を引き受け、2集落の広域的な協定として活動している。

3. 取組の内容

片田集落の水稻生産は、全ての圃場を法人が請け負っており、隣接の樋口谷集落においても現在3割程度が法人に集積されており、この割合は年々増加している。

一方、集落協定により農道・水路の維持、防護柵の管理、育苗をはじめとする施設整備など法人や個人の営農の下支えを共同取組として行っている。今後も地域の担い手としての法人の役割が非常に重要である。（集落協定参加農地 30ha 法人 19ha 個人 11ha）



【人農地プラン関係者会議】



【小学生によるほ場草取り体験】

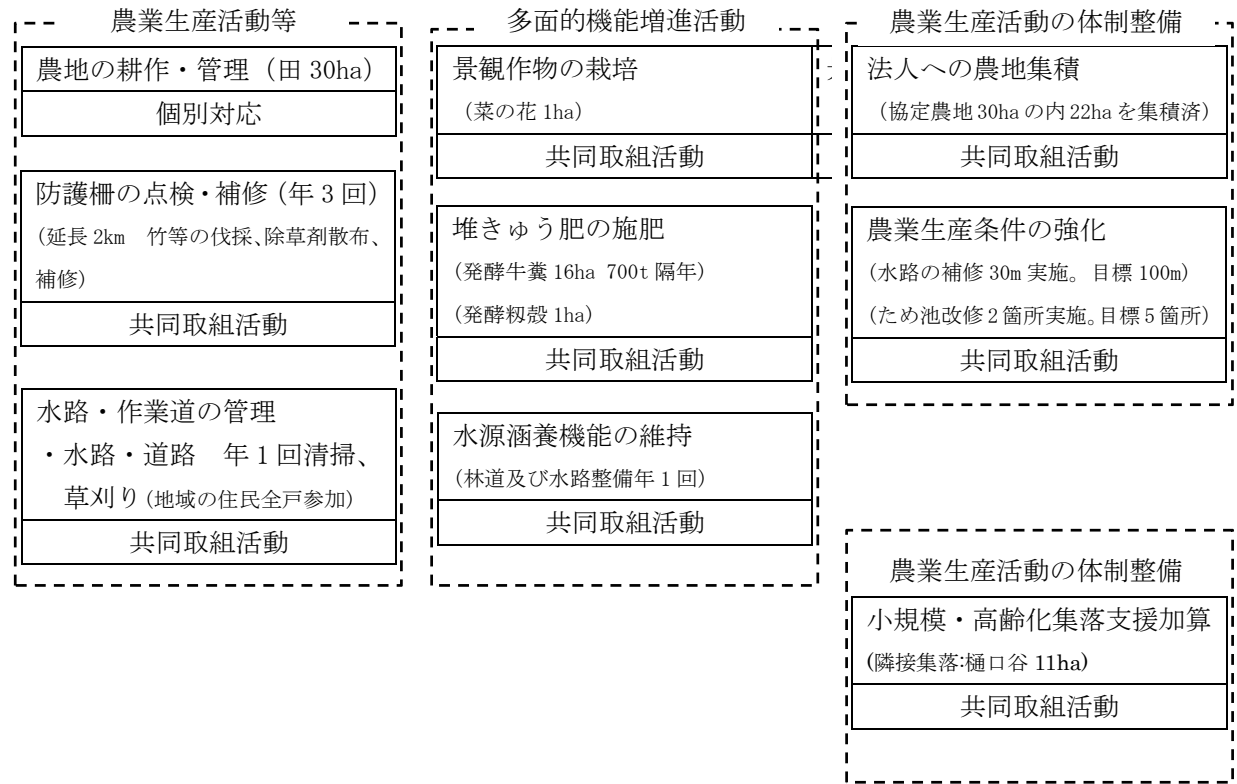
【集落の将来像】

- 安全・安心・美味しい・楽しい集落形成



【将来像を実現するための活動目標】

- 育む人、育む土を創る。
○ 法人経営等整備事業を支援する。



4. 今後の課題等

法人への農地の集積がこれからも増えていくのは間違いないが、米価低迷のなか作業の省力化（機械化、肥料などの自家製造等）、販売戦略（農産品の差別化、販売ルートの確保）が課題となる。また、それ以上に集落での協力が必要である。イベントなどを通して構成員の自らが参加している意識（協同の心）を深め、定年帰農と生活基盤に故郷を選んだ若者、経験豊富な女性の参加が重要である。

【第 3 期対策の主な成果】

- ため池整備（斜樋、底樋改修）
○ 小規模圃場整備（基盤入れ替え 10a）
○ 共同施設建設（格納庫、もみ殻貯留施設）
○ 発酵粃殻堆肥試験製造、試験施肥（食味向上を確認）
○ 育苗及びトロ箱栽培他で女性の生産事業への参加が増加している。